

．産業連関分析の流れ

ここでは、実際に行われてる経済波及効果分析を紹介します。実際の波及効果は開放経済を想定した $\{ I - (I - \bar{M}) A \}^{-1}$ 型の逆行列係数を使用します。

また、生産誘発額に伴う粗付加価値誘発額、雇用者所得誘発額も産出します。

直接効果分析

発生需要

中間投入額 = 発生需要 × 中間投入率

粗付加価値額 = 発生需要 × 粗付加価値率

雇用者所得額 = 発生需要 × 雇用者所得率

第1次間接効果分析

県内需要増加額 = 中間投入額 × 県内自給率

生産誘発額 = 逆行列係数 × 県内需要増加額

粗付加価値誘発額 = 生産誘発額 × 粗付加価値率

雇用者所得誘発額 = 生産誘発額 × 雇用者所得率

第2次間接効果分析

雇用者所得合計 = 直接効果での雇用者所得額 + 第1次間接効果での雇用者所得誘発額

消費支出 = 雇用者所得合計 × 平均消費性向

生産誘発額 = 消費支出 × 民間消費支出の生産誘発係数

粗付加価値誘発額 = 生産誘発額 × 粗付加価値率

雇用者所得誘発額 = 生産誘発額 × 雇用者所得率

分析結果

直接・間接区分	生産誘発額	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額
直接効果	(1)	(2)	(3)
第1次間接効果	(4)	(5)	(6)
第2次間接効果	(7)	(8)	(9)
合計	(1) + (4) + (7)	(2) + (5) + (8)	(3) + (6) + (9)

上表の生産誘発額合計 ((1) + (4) + (7)) がいわゆる経済波及効果であり、粗付加価値誘発額 ((2) + (5) + (8)) は経済波及効果により増加する粗付加価値額であり、GDPに相当します。さらに、雇用者所得誘発額 ((3) + (6) + (9)) はその内数になります。

以上の手順をフローチャートにすると次のようになります。

